

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600398		
法人名	医療法人 福寿会		
事業所名	グループホーム勝央		
所在地	岡山県勝央町植月中2423-1		
自己評価作成日	平成26年1月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3373600398-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル10-22		
訪問調査日	平成26年1月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は、高齢になり身体も思うようにならないことも多くあります。今できることを楽しみながら生活できるように、趣向を凝らして地域行事に積極的に参加します。暖かい日は、出来るだけ外気に触れる機会を作り、季節を感じるように工夫をしています。季節や習慣に合わせた献立を考えて「楽しく食べる・生きる喜び」を支援します。「ここにいる良かった」と本人・家族が思えるように支援します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に謳われる「その人らしさ」の生活を大事にしたいとの思いから、季節の行事や地域のイベントを大切に、入居者の介護度が高くなっても、出来る限り外出やドライブに出かけている。地域との付き合いを大切に、勝央北小学校や植月保育園との交流を図ったり、植月コミュニティに作品を展示したり、日吉神社のどんと焼きに出掛け炭を塗ってもらったり、秋祭りには、表に椅子を出して神輿を出迎えている。事業所の良い点を職員にヒヤリングを行い、事業所の良い点をあげてもらおうと、働きやすい環境であると答えた通り、職員の間関係が良く、利用者も何でも言いやすい環境となっており、家族の安心へと繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングで確認しながら、理念に添って接遇など、利用者の立場で考えるようにしている。	理念の「その人らしら」を常に考えなら、介護に努めている。また毎月実施されるミーティングで、月目標を考案したり、前月の目標の反省をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流を積極的に行い、地域の保育園・小学校などの慰問もある。地域のお祭りや文化祭などの行事にも努めて参加している。	地域との繋がりを大切に、小学生や保育園児が慰問に来てくれたり、学習発表会や運動会に見学に出かけたり、入居者が作成した雑巾を差し入れている。また、秋祭りには表に椅子を出して神輿を出迎えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の文化祭などで認知症の理解をいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の町内役員さんの協力を得て施設の改善などに生かしている。	町内会長、民生委員、行政職員、家族代表者、管理者の参加により開催されており、その場で実践内容を報告し、意見を取り入れることでさらなるサービスの質の向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、必ず出席していただき、ホームの実情を理解していただいている。困難なときは相談援助をいただいている。	運営推進会議には勝央町職員が参加しており、定期的実践内容の報告やイベントの案内をする機会となり、消防訓練にも見学に来てもらったりと協力関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ミーティングで取り上げ、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ミーティングで身体拘束マニュアルを配布し、身体を拘束することだけが身体拘束に該当するのではなく、言葉の拘束も身体拘束になることを話し合い、お互いに気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ミーティングで取り上げ、虐待に繋がらないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要時に利用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は、管理者が行い、運営規程・重要事項説明書などをもとにケア方針などを説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を依頼し、利用者家族の要望を尋ねながら、運営に反映させている。	定期的に発行する新聞に運営推進会議の案内を行い参加を呼びかけ、運営推進会議や来訪時、電話等で意見や要望を伺い、運営に反映させている。また、家族との関係を大切にする為、年2回家族交流を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで要望を聞き、月例報告として毎月管理者会議宛報告し、改善に努めている。	管理者との関係は良好で、ミーティング時や個人的に何かあると意見や要望等と言える関係にある。また管理者は職員の希望を重視したシフトを作成して、勤務しやすい環境を心がけている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望を優先し、家族の介護などを考慮している。資格取得には、協力して勤務希望を優先し、資格取得が出来るように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの質の向上、認知症の理解など、意欲のある職員には、研修参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流機会は少ないが、美作地域の研修会・津山地域の研修会などで情報交換を行いサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や本人から困っていることや、希望を尋ねながら、寄り添いなじみの関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや、困っていることを聴きながら、要望に添うよう、より良いサービスの向上に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の様子を尋ねながら、どうしたら利用者の幸せか、介護者が困らないかを一緒に考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持てる能力を発揮してもらい、人生の先輩として助言をいただきながら、出来ることを一緒にしていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日ごろの様子や体調を報告し、生活の様子を理解していただく。また通院介助など出来るだけご家族の協力を得て、情報を共有している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の慣習を訪ねながら、行事に積極的に参加している。	地元の利用者が多いので、友だちや近所の方が訪ねてくれる。先日、利用者の入居を知った同級生から手紙が届いたので、電話でお礼を伝えたことがきっかけとなり、実際に会いにも出かけた。又、地元の季節行事には必ず参加するように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が楽しく過ごせるようにボール遊び等を行うと、出来ない利用者をお互いが労わり和やかになる。人のお世話が出来る方には、その場面を提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られても困ることがないように、必要な情報提供を行い、相談援助に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情の中から本人の意思を汲み取るようにしている。意思の疎通ができないときは、家族と相談しながらより良い方法を見つけよう努めて対応している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーを尊重しながら、生活歴を尋ねて家族や本人が納得できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活のリズム、日常の過ごし方、その日の状態の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いを尋ねながら、家族の要望や意見を尊重し、思いが実現できるように努めている。モニタリングを職員全員で行いより良いケアに反映できるように計画書の見直しを行っている。	利用者や家族との日々の関わりの中で、思いや要望を聞いたり、ミーティングで出た職員の意見を参考にケア計画に反映させている。常に現状に即した利用者本位の計画を考え、状況に応じて見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、バイタル・食事・水分量・排泄の様子・生活の様子やエピソードを記録している。職員間で情報を共有し、より良いケアの計画・実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の実情に合わせて、通院や個人的必要物品の購入など、相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に積極的に参加し、保育園の慰問小学校の慰問を受け入れながら、楽しみながら生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医は変更しないで、なじみの医師の訪問診療を受けている。かかりつけ医には職員も相談・助言を受けている。	利用者を一番理解している入所前からのかかりつけ医を変更しないで、訪問診療してもらっている。訪問診療が不可能な場合は、管理者が病院に付き添って対応している。体調が悪い時等は、かかりつけ医や協力医の指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、健康管理や状態の把握など、変化に応じて受診などの対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日常生活や経過などを詳細に連絡し、対応しやすいようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の望みをかなえられるように配慮し、ホームでの対応が可能な範囲を理解していただき、誠実な対応に努めている。	食事や入浴等の日常生活の介助をしたいと考えているので、重度な医療行為と経口摂取が出来なくなった場合は、別の施設へ転居してもらおうようお願いしている。この度家族がどうしても看取って欲しいと言われているので、はじめて看取りを行おうと検討している。	日常生活の介助が出来なくなることが申し訳ないとの思いから、今まで看取りを行っていなかったが、今回家族の強い希望を受入れ、看取りを行うことになった。職員の一致団結を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が応急手当が出来るように救命救急講習を受講している。急変時には、看護師の指導を受けながら対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣のホームとの合同の避難訓練を実施し、全職員で災害時の対応を理解している。地域の消防署・消防団にも協力を依頼し、実情を把握していただいている。	町内の避難訓練に参加し、色々と指導をもらった。盆暮れには近隣に救援をお願いする挨拶回りをしている。災害時には、隣の施設に助けを求め、119番に通報し、近隣に救援を求める屋外のランプを点灯させることを決めて、スイッチを押すのが誰にでも分かり易い工夫が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを尊重し、情報収集を行い、個人情報取り扱いを管理している。本人の思いを大切に、自己決定しやすい言葉かけ、さりげない介護に努めている。	理念にもあるように利用者様の人生、経験、人格を理解し尊敬の心をもつことを基本として言葉遣いや言葉かけを重視した対応を心がけている。排泄の失敗等他の利用者に気付かれない様な対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で希望を尋ねながら、いろいろな選択肢を提案し、自己決定を促している。自己決定ができないときも職員の都合を押し付けないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合せ職員は待つ姿勢でケアを行っている。その人らしい暮らしや普通の生活を常に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定の出来る方には、その日の衣類を決めていただいている。訪問美容師による散髪などは実情に合わせて行っている。身だしなみに関心が持てるように声かけを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	能力により食事の準備・盛り付けなどをしていただく。片付けなども一緒にしていただくこともある。	利用者の食欲が増すようになるので、赤い人参を食材に使用したり、お皿に綺麗に盛り付けて提供している。隣の田んぼのお米を購入したり、地元のパン屋から4～5種類のパンを週1回順番にメニューに取り入れている。紅葉を見に行く際におにぎり弁当を持参した。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や体重の増減を見ながら、食事の量を調整している。献立や調理を工夫し、満足が出来るようにしている。水分は、摂りやすいように、好みの味や回数などを工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。能力に合わせて介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、一人でトイレに行けない方には、排泄誘導表をつけて一人ひとりの排泄パターンを把握しながらトイレへ誘導介助している。夜間は、利用者の様子を見ながら誘導介助している。	毎日ボードに排泄チェックを記録し、トイレ誘導を行い、個人記録に転記している。おしめの方も居るが、出来る限り紙パンツでトイレでの排泄を心掛けている。トイレには消臭剤と暖房器具が置かれたり、保冷バックにお湯とタオルを入れ、清拭も行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のリズムに合わせ、水分が十分取れるように工夫したり、食物繊維の多い食品や献立を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	大まかな入浴日・時間は決めているが、本人の希望を優先している。	三人一組をグループに分け交代で週二回入浴が行われている。入浴時間を調整するなど、できるだけ本人の希望に添った入浴となるように支援している。近所の方が差し入れてくれたゆずで、ゆず風呂を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活のリズムに合わせて休憩や入眠が出来るように環境を整えている。安眠に向けての生活のリズムを大切にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの能力に応じて服薬介助を行っている。服薬しやすいように粉碎したり、薬剤師と相談しながら服薬介助している。薬の変更や状態は、全職員に申し送り、医師と連携して状態の把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じて役割を持っていただいている。達成感を味わうことが出来るように、それぞれの得意分野の仕事を一緒にしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り外出の機会を設けている。買い物・支払いに出かけるときも同行し、外の空気に触れ、気分転換が出来るように支援している。	週に3日位、気分転換も兼ねて散歩に出掛け、無人野菜を購入して帰ることもある。また植月コミュニティに展示された作品を見学に行ったり、当林寺のひな祭り、ノースビレッジやお花見等ドライブに出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を管理することは出来ないが、一緒に買い物に行ったり、物の値段を見る・買いたいものを選ぶこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話をつないだり、希望されるときは電話をかけることもある。返信のはがきの表を書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関はいつもボランティアにより、季節のお花がいけてある。居心地の良い空間作りに努めている。	玄関には、月二回ボランティアの方が生けた季節の花が飾られている。壁には干支のちぎり絵や季節を感じる作品が飾られている。各々居心地の良い席に座り、塗り絵をしたり、雑巾を縫ったり、体操をして過している。家族や職員の要望により増築されたテラスから見える景色は季節を感じ落ち着ける。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人同士がテーブルを囲んで話し合ったり、一緒に過ごすなど自由に過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の思い出の品や、作品を飾ったり居心地の良い空間作りに努めている。	居室には誕生日に職員から送られたプレゼントの額や家族の写真、年賀状が飾られている。本人の能力に合わせたベットや家具が配置されている。各部屋には洗面所が設置され、食後には口腔ケアが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた安全な環境にしている。衣類など出しやすいように、整理整頓を行っている。居室には、目線の高さで名札をかけている。		